

『リスタート』 山口県立山口高等学校演劇部 2017 年度上演作品

作者 新堀 浩司（劇団たまたまてばこ）

潤色 山口高校演劇部

上演 山口県山防地区高等学校演劇発表会 最優秀賞
山口県高等学校演劇大会 最優秀賞
中国地区高等学校演劇発表会 出場

作品紹介 進学のための引っ越し前夜、朝にはトラックが来るというのに奈央はまだ荷づくりが終わらない。そこへ親友の泉が現れ、他愛もない会話を続けるうちに・・・。

登場人物 2人

上演許可を得るための連絡先 asakawa.miyoko.tg@m.ysn21.jp

【必ずお読みください】

この作品は、脚本公開サイト「はりこのトラの穴」掲載の新堀浩司さんの作品『リスタート』を山口高校演劇部が許可を得て潤色、上演したものです。このたびの潤色版脚本の公開についても新堀さんの許可を得ていることを申し添えます。

なお、上演希望の場合は必ず新堀さんにも連絡のうえ上演許可を得てください。

（下記 URL よりオリジナル脚本ダウンロードおよび作者への連絡が可能です。）

<https://haritora.net/look.cgi?script=11434>

第五十五回中国地区高等学校演劇発表会

上演 11 山口高等学校

リスタート

作 新堀浩司

潤色 山口高校演劇部

リストアト

作・新堀浩司
潤色・浅川美代子

人物

前田奈央

石原泉

舞台は奈央の自室。荷作り中のものである。部屋は散らかり放題、ふたが閉じていないダンボールがたくさん。

奈央、ダンボールに入れようとした写真に目をやり手が止まる。

奈央

もう！

奈央、写真を投げつける。

怒りがおさまらないのか、突っ伏してふてくされる。

ダンボールの山かげから、泉が顔を出す。

奈央はふてくされたまま気づいてない。

泉、奈央を覗き込む、が、同時に奈央は立ち上がって手当たり次第にダンボールに入れていく。

奈央、泉の存在になかなか気づかない。

ようやく気づいて、

奈央

!!!

泉

何驚いてんのよ。

奈央

泉ちゃん？

泉

何？

奈央

いたの？

泉

いたよ。

奈央

いつから。

泉

ずっと。

奈央

気づかなかった。

泉

そりゃそうでしょうよ。

奈央

なんで。

泉

なんでって。

奈央

なんでこんなところいるの。

泉

これ。(手紙のようなものを見せる)

奈央

あ。

泉

こんなのもらって、来ないわけにはいかないでしょ。

奈央

まさか来ると思わなかったから。

泉

え？ じゃあなに？ 来ると思わない相手に「来い」って手紙よこすの。

奈央

あ、いや、その、

泉

もう、気になって気になってすつ飛んできたよ。

奈央

んー・・なんで来たとき言ってくれなかったの？

泉

声かけられる雰囲気じゃなかったから、奈央。

奈央 そんなに？
泉 うん。

泉、奈央の怒りのシーンを再現。

泉 もう、もう、もう！ うがーーーー！

と、荷物を相手に暴れる。

奈央 そんなのしてないよ！

泉 いいや、こんなだった。

奈央 ちがうもん。

泉 じゃ、「がおーーーーー！」

奈央 もう！

ちよつと楽しくなる二人。

泉 まだまだかかりそうだね。

奈央 うん。

泉 いつ？

奈央 明日。

泉 やばいじゃん！

奈央 そうなんだよ。朝9時だって、トラック。
泉 今何時！？

奈央 まもなく夜の10時です。

泉 おばさんは？

奈央 明日の引越しについてくるために、今日は夜勤だつて。

泉 大丈夫なの？

奈央 このまま大丈夫じゃなくなりたい。

泉 馬鹿なこと言つてないの。

奈央 はあ・・・。

泉 冴えない顔してんねえ

奈央 生まれつきこういう顔ですから。

泉 顔の問題じゃなくてさ。

奈央 じゃあ何。

泉 もつとこう、わくわくとか、どきどきとかないの？新生活だよ？

奈央 ない。

泉 『ああ、どんな素敵なことがあるのかしら』みたいな胸のトキメキを感じないの？

奈央 ぜんぜん。

泉 なんでそうかなー。

奈央 だつて、

泉 だつてなに。

奈央 泉ちゃんいないし

泉 …まあ、それは…

奈央 うそつき。

泉 そうおつしやられても、自分ひとりの力ではどうしようもないことがこの世にはあるわけで。

奈央 私がどうなつてもいいんだ。

泉 自分だつていいと思つたから、受けたんでしょ。

奈央

ひとりじゃないって思ったからだよ。

泉

あのね、いくら幼稚園からの仲だからって、一生一緒にはいられないんだよ。

奈央

一緒に勉強して、一緒に保育士になって、ゆくゆくはいつしよに保育園の経営でもしようねって約束したのに！

束したのに！

泉

まあね、そんな夢を語ったこともありませんね。

奈央

私一人でできるはずないじゃん！

泉

約束守れないのは悪かったけどさ、しょうがないじゃん。

奈央

泉ちゃんいなかったら、私の短大生活は灰色だよ。いや、どどめ色だ。どどめ色の学生生活だよ。

泉

前から気になってただけどさ、どどめ色ってどんな色なの。

奈央

どどめ色はどどめ色だよ。

泉

詳しくわかるように説明してくれないかなあ。

奈央

いずみちゃん。

泉

ん？

奈央

その手には乗らないよ。

泉

え。

奈央

いま、話を逸らそうとしたでしょ。

泉

んー。

奈央

いつもそうだったんだから、泉ちゃんは。

泉

いつもじゃないよ。

奈央

いつもだよ。こんなときにまでそうだよ。

泉

あー、はいはい、ごめんなさい。

奈央

また、てきとーに。

泉

申し訳ございません。

奈央

ふん。

泉 ねえ奈央くもう許してよー。

奈央 どうしようかな。

泉 許して、ね？

奈央 いいよ。

泉 やった。

奈央 一緒に行ってくれるなら。

泉 無茶言わないでよ。

奈央 今日だって来てくれたじゃん。

泉 あのね、合格したのは奈央だけなんだよ。

奈央 ひとりじゃ無理だよ。

泉 独り立ちの春、旅立ちのときだよ。

奈央 かっこいいこといって、またごまかそうとしてるでしょ。

泉 ああー。

奈央 じゃあ私が、泉ちゃんのほうに行く。

泉 もつと無茶だよ。

奈央 ううー。

泉 友達いっぱいできるよ、きつと。

奈央 できないよ。もう2年間ぼっち決定だよ。授業も休み時間もお昼ご飯も学校終わったあとも、ずっと一人で過ごす運命なんだよ。授業も休み時間もお昼ご飯も学校終わったあとも、

泉 なんでそこまで思いつめるかなあ？

奈央 わかるもん。

泉 高校でも私以外に友達いたでしょ？

奈央 いたよ。いたけど、それは泉ちゃんがいてくれたからだもん。泉ちゃんがきつかけになって仲良くなった人たちばっかだもん。泉ちゃんがいてくれたからスーパー人見知りですーパーコミュニケーション

泉 ヨン障害の私でも友達になってもらえたんだもん。泉ちゃんいなきや無理だよ」
奈央

奈央 いいよ。もう私こうなったら極めるから。

泉 極める？何を？

奈央 ぼっち道。

泉 なにそれ？

奈央 一人ぼっちの道。友達がいらない、孤独な人間が歩む道のことよ。すなわち、ぼっち道。

泉 聞いたことないけど。

奈央 ぼっち道を極めて、ぼっちの中のぼっち。キング・オブ・ぼっち。ぼっち王になるから。

泉 ぼっち「クイーン」じゃない？

奈央 はあ？

泉 ……そんな学生生活で満足なの？

奈央 満足なわけないでしょ？寂しいよ！そんなこともわかんないの？泉ちゃんのばか！

泉 えー、そうくる？

奈央 ばかばか！泉ちゃんのばか！ぼっちクイーンとか、そんな本気で目指してるとでもおもった

の？ ばかー！

泉 逆ギレしないでよ。

奈央 だって。

泉 寂しいんだったら、そうならないように、頑張ろうよ。

奈央 頑張る？何を？

泉 友達作りだよ。

奈央 はあ（ため息）。

泉 新たなスタートなんだからさ、ほら、短大デビューすればいいじゃん！

奈央 デビュー？

泉 人見知りで内向的な自分を捨てて、社交的になろうよ！
奈央 社交的。

泉 あたらしい自分を見つけて、友達百人作ろうよ！

奈央 ・・ははっ。ナイスジョーク。

泉 ジョークじゃないよ、本気だよ。

奈央 十八年人見知り続けてきたのに、急に社交的になれるわけないじゃん。簡単に言わないでよ。

泉 簡単じゃないのはわかってるから、頑張ろうって言ってるんだよ。

奈央 頑張り方、知らないから。

泉 よし、わかった。じゃあ、練習しよう！

奈央 練習？

泉 備えあれば憂いなし。順調な新生活をスタートさせられるよう、練習しようよ。私がおしえるからさ。

奈央 無駄だと思うけど。

泉 やるまえから諦めない。

奈央 自分のことは自分が一番よく知ってるよ。

泉 そうかな。

奈央 え？

泉 私は、奈央のことよく知ってるよ。誰よりも知ってる。

奈央 ・・ほんとに？

泉 うん。

奈央 ほんとの本当に？

泉 本当に。

奈央 神様に誓って？

泉 誓う。

奈央

嘘ついたらあの世で閻魔様に舌ひっこぬかれるんだよ？

泉

あの世かあ、それは下界の者たちが勝手に想像していることであって・・・。

奈央

え？

泉

いや、誓います。私、石原泉は、前田奈央のこの世でいちばんの理解者であると、命を懸けて誓います！

奈央

おおげさ。

泉

奈央がやれっっていつてんでしょ。

奈央

まあ、そうだけど。

泉

よし、やるよ？いいね！

奈央

うーん。

泉

学生生活、どんな場面でも、鍵になるのは好感度の高い自己紹介だよね。これ、重要だよ。

奈央

自己紹介とか最悪。無理。無駄。不可能。

泉

ネガティブワードを連発するな！

奈央

だって、人前で喋るのとか無理だし、私のことなんて誰も興味ないから無駄だし。好感度の高い自己紹介なんて不可能だし。

泉

そこから変えていこうよ。大丈夫、簡単だよ。

奈央

(ぶつぶつ) 簡単じゃないからこうだっって言ってるのに・・・(ぶつぶつ)。

泉

じゃあ、とりあえず私が見本見せるから。良く見ててよ。

奈央

うん。

泉

(椅子から立つ) はじめまして！石原泉です！高山市の高島高校出身です。気軽に泉って呼んでください。趣味はスポーツ観戦です。野球もサッカーも陸上もなんでも見ます。スポーツ大好きなんです。逆に勉強はちよつと苦手ですけど。みなさんこれからよろしくお願ひします！(椅子に座る)

奈央

こんな感じかな。

奈央

うわ、リア充だ。リア充の自己紹介だ。

奈央

うわ、リア充だ。リア充の自己紹介だ。

奈央

うわ、リア充だ。リア充の自己紹介だ。

奈央

うわ、リア充だ。リア充の自己紹介だ。

奈央

うわ、リア充だ。リア充の自己紹介だ。

泉 なにその反応。

奈央 まぶしくて直視できない。

泉 大げさだよ。

奈央 短大ってさあ、ホームルームとかあるわけ？

泉 知らないけどさあ、仮の設定だから。新しい仲間が集まって自己紹介とかあるよ、きっと。

奈央 えー。

泉 ほら、奈央もやってみ？今みたいな感じで。教室でみんなに囲まれた状況で喋るっていうのをちゃんとイメージするんだよ？

奈央 教室で

泉 そう。

奈央 みんなに囲まれて。

泉 うん。

奈央 (立ち上がり小声かつ早口で) 高島高、前田です(座る)。

泉 . . .

奈央 想像力を総動員した。

泉 . . .

奈央 どう？

泉 うん。0点。

奈央 厳しくない？

泉 マイナスをつけないだけありがたいと思え。全然違うじゃん！学校名と名前しかいってなかったでしょ？しかも苗字だけで下の名前言ってないし。

奈央 よくある苗字だけど、同じ学校に何十人もいないでしょ。

泉 そういう問題じゃないから。ちゃんとフルネーム言って。あと趣味。

奈央 趣味ー？

泉 何でもいいから、趣味をひとつ言うこと。いいね？

奈央 ……はい。

泉 それから、もっとゆっくり喋って。今みたいにボソボソ早口だと聞こえないよ。ゆっくりハッキリ大きな声で。

奈央 ……努力はするけど。

泉 あとね、見た目が駄目。

奈央 それは努力しようがない！生まれつきなんだからしようがないでしょ。文句があるなら親に言ってみよ！DNAに言ってみよ！

泉 顔の話じゃないよ。姿勢、表情。そういうの大事なんだよ。立つときはピシッと立つ。たつて！背筋を伸ばして！ 下向かないの。

首上げて。首…上げすぎ。天井見たってしようがないでしょ。あなたの学校には天井にクラスメイトが潜んでるのか。忍者学校か。正面見て正面、

奈央 泉ちゃん。

泉 なに？

奈央 さっきの忍者学校はあんまり面白くなかった。

泉 うるさいな、わかってるよ。

奈央 初対面で引かれるのはどうかなあ。

泉 うるさいってば。ちよっと自分でも失敗したって思ったよ。

奈央 ほんとにー？

泉 そんなことはいいんだって。とりあえず、姿勢はそれでいい。あとは表情。笑顔、笑顔。

奈央 (すぐくひきつった笑顔)

泉 うわ、硬いなー。

奈央 (また別の引きつった表情)

泉 うーん、まいつか、表情はなるべく柔らかくね。

奈央 …まあ、最善は尽くすけど。
泉 よし、じゃあ今のダメ出しをふまえてもう一回いってみよう！

奈央、立ち上がり、喋りですが、硬い表情と硬直した姿勢、そしてゆっくり喋る
ことを意識したためカタコトっぽくなり、さながらロボットのようである

奈央 高島高カラキタ、前田奈央デス。趣味ハ、アリノ行列ヲ眺メルコトデス。ヨロシクオネガイシマス
(座る) …どう？

泉 うん、悪化した。

奈央 なんで？言われたこと全部やったよ！

泉 そうなんだけどもさ…。

奈央 なんかいところないの？

泉 いいところねえ。

奈央 私、どっちかって言うのと褒められて伸びるタイプなんだけど。

泉 まあ、あえて言うなら…いい所は、すごく印象に残る。

奈央 うん。

泉 ただ、欠点もある。

奈央 うん。

泉 欠点は、悪い印象しか残らない。

奈央 駄目じゃん！

泉 そうなんだよ、駄目なんだよ。

奈央 頑張ったのに。

泉 ていうかさ、あれ何？

奈央 え？

泉 趣味が『アリの行列を眺める』って、なんじゃそりや。

奈央 なんでもいって言ったじゃん。

泉 言ったけどさ。

奈央 楽しいんだよ。蟻の行列眺めるの『ああ、蟻さんは今日もみんな仲良く頑張ってるな。それにく

らべて私はこれからぼっち決定だな。友達もない私は虫けら以下なんだな』って。

泉 全然楽しさ伝わってこないよ？もつとあるじゃんホラ、

奈央 もういいよー。無理だよー。

泉 諦めないでよ。

奈央 私には自己紹介の才能がない。

泉 自己紹介に才能もクソもないでしょ。

奈央 だってさ、一生懸命やったのにさ、悪い印象しか残らないとか言われたらやる気なくすよ。

泉 えー、私のせい？

奈央 聞くだけで吐き気がするとか、見るだけで目が腐るとか言われたら。

泉 そこまで言っていない。

奈央 無理です。ギブアップです。

泉 …分かった。じゃあ、別の手を考えよう。

奈央 まだやるの？

泉 当然。奈央にぼっちの学生生活なんて過ごさせないよ。一番の理解者としてはさ。

奈央 泉ちゃんがいればいいことなのに。そっちのが簡単じゃん。

泉 無理言わないの。

奈央 今日みたいにちよいちよいきてくれたらそれでいいんだよ。

泉 はいはい、無理言わない。やっぱりさ、友達作りに大事なのはきっかけだよね。

奈央 きっかけ。

泉 そう。奈央だってさ、初対面の人間にはすごい挙動不審になるけど、慣れれば普通に話せるわけで

しよ？

奈央 まあ、それはそうだけど。

泉 大事なのはきつかけなんだよ。

奈央 きつかけはいつも泉ちゃんだったから。

泉 新生活！人生の新しい1ページ、過去に縛られないでいこう！

奈央 うわ、ポジティブだ。ポジティブ戦隊ポジレンジャーだ。

泉 奈央。

奈央 ー。

泉 面白くないよ、それ。

奈央 別に、私は面白いこと言って人気者になろうとか、そんなつもりないから。

泉 いや、面白くないっていう才能がある。

奈央 それって。

泉 うん。褒めてる。

奈央 ぶー（ふてくされる）。

泉 よし、じゃ、きつかけになりそうなシチュエーション考えよう。何か話題の取っ掛かりになるものがあればなんとかなるはず。

奈央 アリの行列眺めるのが好きな人がいれば…

泉 そこに期待するのはやめよう。まずない。

奈央 ー。

泉 うーん…そうだ、勉強！奈央はさ、勉強できるじゃん。

奈央 別に、そうでもないよ

泉 なにいつてんの、ちゃんと第一志望合格したし。

奈央 いけそうなどころ選んでたから。それに、泉ちゃんといっしょならどこでも、って感じだったし。

泉 またまたー、謙遜して。私の勉強が遅れてる時き、よく教えてくれたじゃん。すっごいわかりやす

かったよ？

奈央 泉ちゃんといっしょにいきたかったから。でも……。

泉 ー・・まあ、そんな話はいいや。勉強教えるのがうまいっていうのは武器になるよ。困ってる人を助けてあげたらさ、仲良くなれるきっかけになる！

奈央 そううまくいくかなあ……。

泉 練習すれば大丈夫。ちよつとやってみようよ！

奈央 え？またやるの？

泉 備えあれば憂いなし。私が勉強が苦手な学生の役をやるから、奈央は私を助けてあげてね。

奈央 ……やるだけやってはみるけど。

泉 あーあ、またレポートで評価Dとっちゃったよ。このままじゃ留年しちゃうかもしれないなあ。あつ、ねえ前田さん。

奈央 な、ナンデスカ。

泉 前田さんってさあ、すごく勉強できるよねー。

奈央 え、いやソナコトナイデスヨ。

泉 またまた謙遜しちゃうって。本当うらやましいよー。勉強のコツとか教えてよ。

奈央 コツですか……

泉 そう。

奈央 コツっていうか、

泉 うんうん。

奈央 私、友達いないじゃないですか。

泉 えっ？

奈央 友達いないと、時間もてあますんですよね。高校でも放課後の時間が異様に長くて、しょうがないから勉強してたんです……。

奈央 私がたまたま成績がいいのは、私に友達がいなくて、友達さえいればもつと成績悪いはずだからむしろ成績悪くても友達いる人の方が羨ましいっていうか、

泉 (はたく) 暗いよ!

奈央 いたっ!

泉 ほぼ初対面の相手にそんな話聞かせてどうすんの? ドン引きされて終わりだよ。

奈央 でも事実だし。

泉 事実だったらなにいつてもいいってわけじゃないんだよ?

奈央 嘘つけばいいの? 『私は生まれついで勉強の天才です』とか。

泉 ちがうよ。

奈央 うそつきは地獄でひどい目に遭うんだよ!?

泉 いや、じゃなくて、言い方の問題だよ。同じ内容でも表現の仕方です。相手の受け取り方は随分違うで

しよ?

奈央 具体的になんて言えば良かったの?

泉 例えば『空いた時間でコツコツ勉強してるだけだよ』とか。

奈央 なるほど。コツは、コツコツ勉強…。

泉 そうそう

奈央 コツは…コツコツ…?

泉 ん?

奈央 駄洒落になってるけど、これは狙い?

泉 狙ってない! そんなところ掘り下げなくていいから! よし、じゃあもう一回やってみよう。

奈央 ええ?

泉 前田さんてさあ、すごく勉強できるよねー

奈央 そ、ソナナコトナイデスヨ?

泉 勉強のコツとか教えてよ。

奈央 コ、コツは：空いた時間でコツコツ勉強してるだけデスヨ。

泉 えー、でもコツコツ勉強できるなんてすごいよー。

奈央 そ、そんなことナイデスヨ…。

泉 ねえねえ前田さん、今度私に勉強教えてよ。

奈央 え…い、いいですけど…。

泉 本当？ありがとう！じゃあ今度前田さんの家遊びに行ってもいい？

奈央 え？

泉 いつが暇？来週とかは？

奈央 ちよ、ちよっと待って。

泉 前田さんの予定に合わせるから。

奈央 いきなり家にくるとか、そんな、ふしだらな！

泉 ふしだら！？

奈央 物事には順序というものがございまして、段階を踏まなければならないものと、古来、そのようになつていたのでございまして。

泉 じゃあ、いつぐらいなら行つていいの？

奈央 えーと…3年後では…

泉 (はたく) 卒業しちゃうだろ

奈央 いたっ！

泉 人見知りにもほどがあるでしょ？

奈央 だつてー。

泉 知り合つて3年たたないと家には入れないとか

奈央 厳しすぎる？

泉 厳しいよ

奈央 武田信玄は自分が死んだことを3年間は伏せておくようにいったんだよ。

泉 なんの話よ。

奈央 いや、物事が次の展開をするまでには、そのくらいの時間が必要というか。

泉 意味わからん。

奈央 だって、だって二人きりになるんだよ？

泉 今、わたしたちだって二人きりじゃん。

奈央 そりゃ泉ちゃんだもん。

泉 あー、振り出しもどるわー。

奈央 絶対に間もたないよ。

泉 武田信玄の話でもしてりゃいいじゃん。

奈央 あ、見捨てた。

泉 見捨ててない、見捨ててない。ちよつとめんどくさいなっておもっただけ。

奈央 泉ちゃんがいればいいよ。泉ちゃんならいろんな爆笑エピソードで間を持たせてくれると思うから。

泉 そんなにないよ？爆笑エピソードなんて。

奈央 ミナモトノヨリトモの父親の名前は？って質問に、「タミオです！」って自分のお父さんの名前答

えちやったり。

泉 熟睡してて質問の前半聞いてなかったんだよ。

奈央 2段弁当の2段ともご飯だったり。しかも日の丸弁当。

泉 弟がおかずを2段分持たされましたよ。

奈央 爆笑エピソードがすぎすぎ湧いてくる。まさに泉だよね。

泉 はい。それで両親は私を泉と名づけました、なわけないでしょ！

奈央 それは知ってる。

泉 奈央、よくこんなに人をネタに話続けられるよね。できるじゃん。

奈央 泉ちゃんが話題提供してくれてるだけだから。でも、誰かと二人つきりになったら私が間を持たせ

なくちゃいけないわけでしょ？

泉 相手もなんとかしようとしてくれるって。

奈央 絶対うまくいかないよ。きつと気まずい沈黙が空間を支配するんだよ。ああ、無理無理。

泉 でもね、ちよつと想像してみたら、

奈央 想像しただけで胃に穴があく。

泉 胃腸弱すぎでしょ。

奈央 大体ね、知り合ったばつかりの相手の家に凶々しく遊びに行こうとするような人と私仲良くなれない。

泉 そうかなあ？そのくらい強引な子のほうが奈央には合うと思うよ。あんたがものすごい引つ込み思案なんだから、相手も引つ込み思案だったら接点生まれにくいでしょ？

奈央 まあそうだけど。

泉 それにさ、自分で言うのもなんだけど私だって相当凶々しいじゃん？

奈央 知らないうちに人んち上がりこむからね。

泉 ま、ね。でもさ、私と奈央は幼稚園のころからずっと友達やってこれたじゃん。

奈央 泉ちゃんは泉ちゃんだもん。

泉 なんじゃそりゃ。

奈央 泉ちゃんのかわりはいないってこと。

泉 うーん。

奈央 …もういいよ。友達できなくてもなんとかやっていけるよ、きつと。

泉 奈央。

奈央 友達いなくても充実した学生生活を過ごす方法、私も一応考えてるし。

泉 なに、その方法って。

奈央 ツタヤの会員証作った。

泉 駄目だった！

奈央 大丈夫だよ、旧作のレンタルは100円だから、貧乏学生でもやっていけるよ。

泉　　そういう問題じゃない！奈央、そんな学生生活じゃ何も得られないじゃん！

奈央　Tポイントは得られるよ。

泉　　そういうことでもない！　かけがえのない学生生活をそんな風に無駄に過しちゃ駄目だっていつてるの！

奈央　無駄じゃないよ。世界の名作を思う存分味わえるんだよ？

泉　　いま生きてる世界を味わおうよ。

奈央　でも、向いてないんだって、私。新しく出会う人と上手くつきあっていくなんて、難易度高すぎるんだって。

泉　　わかった。学生と友達になる方法を考えるのはちよつと保留としよう。

奈央　うん。

泉　　でも、まだ手はある。

奈央　え？

泉　　クラスメイトが駄目なら先生と友達になる！

奈央　難易度がってない？

泉　　そんなことないよ。考えてみて。学生だと奈央以上の人見知りがいるかもしれないし、入学したばかりで緊張してて、話しかけても返事ないかもしれない。

奈央　そうだね。

泉　　でもさ、たとえば先生だったら話しかけたら聞いてくれるじゃん。仕事だから。

奈央　まあね。

泉　　相談とかにもものつてくれるじゃん。仕事だから。

奈央　…。

泉　　『友達いないから一人で勉強してます』って言えば『私の研究室にきなさい』とか言ってくれるかもよ、仕事だから。

奈央　泉ちゃん。

泉 なに？

奈央 『仕事だから』っていう時点で友達じゃない。

泉 まあ、よく考えるとそうだね。

奈央 よく考えなくてもそうだよ。

泉 わかった！じゃあ、逆転の発想だ。友達は作らない。

奈央 うん。

泉 でも、友達いなくてもぼっちじゃなくなる方法もある！

奈央 なに？

泉 友達じゃなくて彼氏を作ろう！

奈央 もはや難易度すら想像できない！

泉 例え友達がいなくても恋人がいれば寂しくない。ナイスなアイデアでしょ？

奈央 泉ちゃん。恋人つて道端に落ちてたりしないよ。

泉 うん。

奈央 百均で売ってたりもしないよ。

泉 うん。

奈央 わかった。彼氏を作ろう。

泉 お、その気になった？

奈央 じゃあ泉ちゃん。彼氏を作るために具体的にどうすればいいの？

泉 え？

奈央 さあ、教えて。さあ、さあ！

泉 ……すいません、何もいえません。

奈央 だよ。

泉 私の高校時代ってそういう浮いた噂とは完全に無縁だったからな。

奈央 まあ、私もだけ。

泉 ま、それはいい。想像力を総動員でいこう。
奈央 はい。

泉 えーっと、まず出会いの場面からだよね。

奈央 入学式はどう？

泉 いいね。会場どうする？

奈央 短大のホール。正門入ったら、ばーんってあるの。

泉 よし。じゃあ、そっちが正門で、こっちがホールね。入学式かあ、わくわくしてくるね。

奈央 そう？

泉 あ、こんなのどう？ 式に遅刻しそうな奈央が、あわてて会場に向かっている。(正門作る)

奈央 そういうキャラ設定？

泉 ただの設定だから。

奈央 これは？(ダンボール抱えて)

泉 あ、それこっち。で、あわてて走っているところに、後から同じくあわてて走ってきた男子が、ばーんとぶつかる。

奈央 ふむふむ。

泉 よし。ここからいってみよう。奈央は私の前を小走りです。

奈央 はいっ。

泉、奈央に後からぶつかる。

奈央 きゃっ！

泉 あ、すみません！ だいじょうぶですか？

奈央 ああつ、蟻が！

泉 蟻？

奈央 行列に突っ込んでしまいました！蟻さん、ごめんなさい！

泉 はい、カッター！

奈央 なんて？

泉 なんてじゃないでしょ！

奈央 想像力膨らましてみました。

泉 膨らむ方向が違うから！そっちじゃないから！

奈央 ちがったか。

泉 大違いよ。いい？ 大事な出会いの場面なの。ぶつかったら、彼が奈央のこと助けてくれるような展開にもっていかなきゃ。

奈央 なるほど。

泉 もう一回いくよ。

奈央 はい。

泉 (ぶつかる) ああ、すみません！

奈央 (荷物をぶちまけてしまったようである) いえ、こちらこそ。

泉 (奈央の荷物を拾ってやりながら) 入学式ですか。

奈央 はい、あなたも？ (と、いきなり目が合う)

泉 つきあってください！

奈央 喜んで！

泉 (満足げ) 完璧！

奈央 ふう。やればできるもんだね。

泉 よし、彼氏クリア！

奈央 がんばったわ、私。

奈央 あー、よしよし、よくやった、でかした！
このあとはどうなるの？

泉 いっしょに学校で勉強して、毎日会って、あー、ほら、シンボクを深めるんだよ。
奈央 へえ〜
泉 お互いの家に行ったりとか。
奈央 ソレハマリ。
泉 なんだ！
奈央 やっぱりそういう仲になるには、3年くらいかけないと・・
泉 また（怒）！？
奈央 ごめん。
泉 ま、いつか。練習だから。
奈央 ちよつと楽しかったけど。
泉 でも今思うと、一度でいいから私も彼氏くらい作って見たかったなあ
奈央 …。
泉 一緒に映画みたり、買い物したり、そんな感じなのかなあ彼氏って。
奈央 …よくわかんないけど。
泉 ちよつとちよつと、そんなマジな顔しないでよ。別に私は後悔してるとかじゃないんだからさ。
奈央 うん。
泉 ちよつとさ、休憩にしようか。
奈央 そうだね。
泉 喉かわいたな。なんか飲むものとかない？
奈央 お茶とかで良ければ。
泉 なんでもいいよ。
奈央 ちよつと待ってて。

奈央、去る。泉は部屋でくつろぐ。ふと、机の上に写真立てがあるのに気づく。

泉 ……こんな写真飾るなって。

奈央、二人分のお茶を持って登場。

泉 ありがとう。

二人でお茶を飲む。

泉 奈央、あんたさあ。私の写真こういう風に飾るのやめなよ。
奈央 だめ？

あんたの彼女か私は。

奈央 いいでしょ、別に。友達の写真くらい。

泉 いや、引かれるね、確実に。部屋に友達呼べないじゃん。

奈央 誰も呼ばないからいいんです。

あのねー、奈央。今まで何の話していたかわかってる？

奈央 うるさいなあ、いいからお茶のみなよ。

泉 はいはい。

お茶を飲む。

泉 (写真を見て) でもまあ、なかなか良く撮れてるよね、この写真。
奈央 そう？

泉 モデルがいい。

奈央

はいはい。

泉

最初の頃はひどい写真ばかりだったよねー。ピンぼけしてたり向きがズレてたり。

奈央

初心者はそういうもんです。

泉

大事なカメラ手滑らせて落としたらそうになったりさあ。

奈央

…不器用なんだからしょうがないでしょ。

泉

ほんと。不器用なのによく写真なんて始めたよ。

奈央

どうしてもやりたかったの。

泉

ねえ、撮った写真でどうしてる？

奈央

プリントしてアルバムに整理してある。始めのころのはね。

泉

それ、見たい！見せてよ。

奈央

いいけど。(荷物の中からアルバムを取り出す)

泉

やっぱり最初のほうはひどいねー。全然まともにうつってないじゃん。

泉

失敗したのは消せばよかったのに。

奈央

この目に映ったすべてを記録に残したかったのよ。

泉

ふーん？

奈央

嘘です。デジカメで撮った写真はデータ消せるって知りませんでした。

泉

どこまで器械音痴なの。

奈央

うるさい。

泉

これは何を映そうとしたの？

奈央

ああ、それは確か、空に綺麗な虹がかかったときに虹を撮ろうと思って…。

泉

建物しか写ってないけど。

奈央

ちよつと狙いがずれた。

泉

ズレたってレベルじゃないでしょ…うわ、これもひどい。

奈央

どれ？

泉 私の顔。すごい不細工に写ってるよ。

奈央 それ、私のせいかな？

泉 もうちよっと美しく撮ってくれないと…マリリン・モンローみたいに？ あ、でもこの写真はいいね。みんないい顔してる。

奈央 ン？ああ、それ？

泉 よく撮れてる。修学旅行だっけ。

奈央 うん、京都に行った時のだね。

泉 やっぱりだんだん上手くなってるのわかるね。特に風景写真。でしょ。スマホのカメラとはちがうんだよ。

泉 あ、この写真好き。

奈央 ああ。海行った時の写真ね。

泉 凄く綺麗。これ見ると私もその海にいるって気分になる。

奈央 よかった。泉ちゃんにそういつてもらえと。

泉 でもさあ、これだけ撮ってるのに…ないよね。

奈央 何が？

泉 私と奈央が二人で写ってる写真。

奈央 まあそうだね。いつも私がカメラ構えてるから。

泉 今から撮ってよ。

奈央 え、今？

泉 セルフタイマーとかあるんでしょ？

奈央 う、うん。

泉 じゃあいけるじゃん。撮ろうよ。

奈央 わかった。

奈央、机にカメラをセット。二人、並んでポーズをとる。

泉
撮れたかな。
奈央
多分。

奈央、デジカメの画像データを確認する。

泉
ちゃんと撮れてる？（と覗き込もうとする）

奈央
（泉に見えないようにして）泉ちゃん。

泉
ん？

奈央
これ、消すね。

泉
え？なんで？

奈央
構図が気に入らない。

泉
えー？いいじゃん別に。見せてよ。

奈央
だめ。見せられない。

（泉
えー！（奈央、データ消去）あーあ。

奈央
・・よし、もう一回撮ろう。構図はもつと練ってからね。

泉
じゃあ、こつちに座って、向こうから撮るっていうのはどう？

奈央
ああ、いいねえ。じゃ、座ってみて。

泉
うん。

奈央
もつと右かな　：もつとマリリンモンローっぽくしたら？

泉
そんなこと言われても私マリリン・モンローなんて全然知らないし。

奈央
はあ？じゃあなんでさつきマリリンモンローとか言ったの？

泉
だって、世界的に、美人って言ったらマリリンモンローじゃない？知らないけど。

奈央 いいかげんだなあ、相変わらず。よし、じゃあタイマーセットするよ。
泉 OK

奈央、泉、二人並んでポーズをとる。奈央が画像を確認。

奈央 ・・・うん、いい写真撮れた。

泉 さっきよりいい？ 見せて。

奈央 だめ。ちゃんとプリントしてから見せるから。

泉 えー、まただめなの。写真家先生はこだわりが強いなあ。

奈央 芸術家なの。

泉 まいっか。かなり美しく撮れた自信あるから。できたら絶対にちようだいよ。

奈央 うん。

泉 忘れないでよ。

奈央 うん。・・ちゃんと届ける。

泉 しかし、こだわるようになったねえ。あの奈央がこんな立派なカメラ使ってるとかね。

奈央 せっかくならちゃんとした写真が撮りたいって思っただけだよ。

泉 あ！ 立派な趣味あるじゃん。アリの行列なんかより。：そうだ！サークルだ、サークル！
奈央 え？

泉 友達作る方法。サークル活動があるじゃん。写真部に入りなよ。同じ趣味の仲間なら絶対仲良くなれるよ。

奈央 で、でも写真部なんてあるかどうかかわかんないし。

泉 なかったら作ればいいじゃん。

奈央 作るってそんなの無理だよ。

泉 できるよ大丈夫だよ。こんなに写真好きで、こんなにいい写真（アルバムの）撮れるんだもん。こ

の写真見せてさ、メンバーを募集するの。一緒に写真楽しみませんか、とかいって。

奈央 無理だよ無理無理。それに、入ってくれる人なんていないんじゃないかな？

泉 最初のうちは大変かもだけどさ。地道に活動してけば、きっと誰かが見てくれるって。

奈央 そう、かな。

泉 写真部があったらそこが奈央の居場所になるじゃん。私いなくてもさ、やっていけるじゃん。

奈央 それは、そうかも・・・。

泉 でしょ？やってみようよ、ね？

奈央 ・・・・うん。

泉 なんでこれまで思いつかなかったんだろ。われながらいいひらめきだったわ。ね？

奈央 ・・・・。

泉 奈央？

奈央 泉ちゃんはもういないってことだよね。

泉 え。

奈央 もう来ないつもりでしょ。

泉 そりゃ、いつまでも昔のままってわけにいかないけど、

奈央 じゃあ、なんで今日来たの？

泉 奈央に呼ばれたからじゃん。（手紙を取り出して）

奈央 泉ちゃん。ここにいる泉ちゃんは、本当に泉ちゃんなの？

泉 奈央？

奈央 どうやってきたの？ これまでどこにいたの？ ずっと見てたの？ まだ・・・いるの？

泉 ・・・・ひどいなあ。人が心配してわざわざ来てやってるのに、そりゃないんじゃないの？邪魔なら

呼ばなきゃいいんだよ。

奈央 もう会えるはずない。

泉 会ってるじゃん。

奈央　ほんとに？
泉　ほら、さっき写真だって撮ってもらったよ。

泉、カメラを取ってさっき撮った写真を見せようとする。

笑顔が消える泉。カメラの画像には、奈央一人しか映っていないかった。

泉　・・・なんで奈央一人？

奈央　泉ちゃんにはわかっていると思うけど。

泉　・・・？　あー、そうかそうか、そうだった。久々に楽しすぎて、わけわかんなくなってたみたい。

ははは。

奈央　泉ちゃん？

泉　手紙、もらったから。

奈央　うん。

泉　これ・・・

奈央　おじさんとおばさんに会ったよ。

泉　この手紙！　お父さんとお母さんも感激しちゃったんだろうね、わざわざ私のところまでもってきてさ。「会いたいよ」なんて書かれたらね、

奈央　うそだよ。会えると思ってなかったよ、私。

泉　え。

奈央　わたしね、信じてないんだ。こういうの。

泉　でも（手紙）。

奈央　ただ、書かないと気がすまなかったんだよ。自分の気持ちのもっていきようがなかったの。なんで。

奈央　腹がたってたから。すごく。

泉 何に？

奈央 ・・泉ちゃん。

泉 私に？

奈央 そう。

泉 怒らせるようなことしたかな。

奈央 怒りたくなることばっかだよ。

泉 たとえば？

奈央 学校休む理由、最初にちゃんと教えてくれなかったり。

泉 私にもよくわからなかったから。

奈央 すぐに戻ってくるっていったのに長いこと学校こなかったし。

泉 最初はその予定だったから。

奈央 いつも笑って「大丈夫大丈夫」とか。

泉 心配かけたくなかったんだよ。

奈央 なんでよ。なんで、ずっと一緒にいようねなんて言ったの？ だめならダメって、言えばよかった

泉 じゃん。

泉 怒らないですよ。

奈央 怒るよ！ なんで、死んじゃうくらい大変な病気だっていってくれなかったの？

泉 ごめん。

奈央 謝らないですよ！ もう、どうしようもないんだから。

泉 わけわかんないなあ。

奈央 ねえ、これ、夢？ なんで泉ちゃんはここにいるの？

泉 心配だから来たただけだよ。

奈央 余計なお世話だよ。

泉 奈央？

奈央 信じてないから。死んだ人に手紙とか馬鹿馬鹿しい。

泉 書いてるじゃん。

奈央 どうせ、私の自己満足だから。

泉 はあ？

奈央 お父さんが死んだときにさ、お母さんが泣いて私に頼むのよ。「棺に手紙書いて入れてあげて」って。

泉 ・ ・ ・

奈央 書いたけどさ。死んだ後でごめんとかありがとうとか言っても、聞こえるわけがないのに。

泉 そんなので後ろめたい気持ちチャラにしても、自分が勝手にすっきりした気分になってるだけだよ
奈央 ね。

泉 すっきりした？

奈央 お母さんは満足したみたいだった。

泉 奈央は？ 「いずみちゃんの馬鹿、もう一度会いに来い。さもないやひどいことになるよ」って書いて、すっきりした？

奈央 べつに。自己満足ですらないよ。

泉 自己満足でもなんでもすりゃいいじゃん。

奈央 え？

泉 いいんだよ。自分の気がすむようにすれば。人のこと気にしすぎなんだよ、奈央は。
奈央 泉ちゃんはいいいね。人がどんな気持ちでいるのかももう考えなくていいんだから。

泉 ・ ・ ・

奈央 あ・ ・ ・ (しまった)

泉 じゃあさ、私も思ってたとおりに言うね。

奈央 何？

泉 毎日まいにち病室までやってきてさ、外のことに楽しそうにあれこれしゃべられてさ、たまったもんじゃなかったよ。

奈央 え。

泉 夕方になったら必ず息切らせて病室に走ってきてさ、病院だっていうのに。

奈央 泉ちゃんが退屈してたらいけないと思って。

泉 こっちは毎日苦しいし、痛いし、不安だし、退屈とかいってられないんだよね。

奈央 ・・泉ちゃんのためだったんだ・・よ。

泉 重くて迷惑なのよ、そういうの。考えたことあった？

奈央 ・・迷惑してたの？

泉 断る元気もないくらい病状すすんでたからさ、はははって笑って聞くのが精一杯？みたいな。

奈央 ひどい。

泉 そうだよ。ひどいよ。みんなそうだよ。

奈央 泉ちゃんのためだったのに。

泉 違う。

奈央 何が。

泉 奈央は、自分のためにしてたんだよ。

奈央 泉ちゃんのためだった！！

泉 自己満足だった。

奈央 泉ちゃんの・・・。(泣いてしまっただけが言えない)

泉 わかっているよ。わかっていたよ。放課後病室に来るために部活やめたとか、私に見せるためにお小遣いでカメラ買って写真始めたとか。苦手科目も必死でノートとって私に教えられるように頑張ってくれていたとか。全部わかっているよ。

奈央 だったらなんで迷惑とかひどいこと言うの。

泉 だから、重たいんだよ。

奈央

泉ちゃん。

泉

身軽になってもいい？ もう私、いないんだから。

長い沈黙。

奈央

・・・あっちはどんなところ？

泉

私に聞くの？

奈央

ごめん。

泉

いいよ。どうせこれは、奈央の頭の中で起きてること、奈央が都合よく私にしやべらせてるんだ

から。何でも御希望通り答えるよ。奈央が思っているとおりだよ。

奈央

そうだね。

泉

あっちはね、何にもないよ。

奈央

・・・。

泉

私はもうどこにもいないし、何もない、何にもなくて、誰もいないところ。

奈央

ごめん。

泉

なんであやまるの？

奈央

ごめん。

泉

私がかわいそうなひとみたいじゃない。やめてよね、そういうの。

奈央

ごめん。

泉

あやまってばっかり。

奈央

ごめん。

沈黙。

泉 勝手にしたらいいんだよ。それだけ言っとく。じゃ。

奈央 帰るの？

泉 帰るところもないけどね。

奈央 どうするの。

泉 また何もないものになるだけ。

奈央 私はどうしたらいいんだろ・・・。

泉 知らない。

奈央 冷たいな。

泉 そりやそうでしょ。もう、私に言えることないし。

奈央 これも私が考えてるとおり、かな。

泉 かも。ただね、

奈央 ？

泉 奈央のこれからは、まだ続くよ。

奈央 泉ちゃん。

泉 じゃ。

奈央 泉ちゃん、いずみちゃん！

泉、消えていく。

奈央 いずみちゃん！

奈央、泉が消えていった方向を見つめるが、もう誰もいない。

やがて、耐え切れずベッドに突っ伏して泣きだしてしまふ。溶暗。

溶明。朝。

目を覚ます奈央。ため息。

ふと周りを見ると、泉と飲んだお茶のカップ。

カメラを取り、画像を見る。何か思うところあるらしい奈央。

奈央　はじめまして、

と、自己紹介の練習をしようとしたところで母の声が聞こえる。

「なおい！帰ったよー？起きてる？荷物できてるの？」

奈央、時計を見て、はっとする。

奈央　やっばい！

あわてて荷造りを始める。

ダンボールの口を閉じようとするが、ガムテープがなくなる。

スヘアを探そうと見回して、泉の写真に目が留まる。

奈央　おかーさん！　ガムテープなくなったー！　下にあるー？

せかせかと荷造りする奈央。

幕